

議事録

会議等の名称	令和２年度 東御市美術品取得審査委員会	開催日時	令和３年２月１２日（金） 午後１時３０分～ 午前２時００分
		場 所	東御市役所本館 第３委員会室
主催者（事務局）	東御市企画振興部 文化・スポーツ振興課文化係	議 長	副市長
出席者	委員：田丸副市長、山田総務部長、小菅企画振興部長、瀬下総務課長、寺田会計管理者、滝澤文化・スポーツ振興課長、大塚契約財産係長 計７名 事務局：荒井文化係長、佐藤丸山晚霞記念館長、日向主査、花岡主事 計４名		
欠席者	大竹梅野記念絵画館長 計１名		
1 開会	事務局	これから東御市美術品取得審査委員会を開会いたします。本日はよろしくお願いいたします。 それでは、次第に沿って進めさせていただきます。	
2 委員長あいさつ	事務局	まず、副市長、委員長あいさつをよろしくお願いいたします。	
	副市長	お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。美術品の取得につきましては、限られた予算の中で、中身を審査いただいて、必要なものは残していき、寄贈の申し出があるものについては吟味し所蔵します。今回は丸山晚霞の作品１点の購入と寄贈作品６点について検討していただきます。よろしくお願いいたします。	
3 審議事項	事務局	ありがとうございました。	
	事務局	続きまして、審議事項に入ります。進行は副市長、よろしくお願いいたします。	
	副市長	（１）「令和２年度丸山晚霞記念館の美術品取得（案）」について、事務局から説明をお願いします。	
	事務局	丸山晚霞の作品で題名は「山村の娘」（仮題）となっております。絵柄を見て私が仮につけました。取得の許可が出た後、収蔵の観点から裏張りの紙を剥がし、作品の裏面を見て、作者自筆の題名があればそれが正式な題名となります。 本作はアメリカで出品されていたものを現所有者が通販で購入し	

		たものです。丸山晚霞は 1900 年に渡米し、3 都市で展覧会を開催し、90 点ほどの作品を売却しました。当館（丸山晚霞記念館）所蔵の作品にある「B.Maruyama」のサインと本作のサインが合致すること、丸山晚霞が渡米前に東御市に滞在していた頃の作品にみられる薔の葉が描かれており、絵の具の塗り方や表現の仕方が他作品とも一致すること、丸山晚霞が初期に描いた面長の女性が描かれていることから、本作は渡米時に売却したうちの 1 点ではないかと考えます。 作品の場所について、祢津、少なくとも東信地区の風景であることは間違いありません。木柵の奥に石垣があり水路が描かれています。建物は長く大きく、寺院や庄屋ではないかと思います。道は祢津特有のなだらかな上り坂であり、今後、祢津地区住民へ情報提供をし、実際の現場を特定したいと思います。 裏にはコネチカット州の画商のシールが貼ってあります。額は当時の展覧会の写真にあるものと同じデザインで価値がありますが、劣化しているので修繕が必要だと思います。
	副市長	ただいまの件について、質問・意見等ございますか。
	委員	作品名について、裏を開ければ必ず書いてあるものですか。
	事務局	確率は 3 ～ 4 割です。書いてなかった場合、場所がある程度推定された後、その地名を題名に入れたいと思います。
	委員	題名を決めた経緯を残しておくべきだと思います。
	事務局	わかりました。
	委員	取得額は妥当なものですか。
	事務局	現所有者が入手した金額とほぼ同額です。
	委員	修繕について、現在の額はどうしますか。また修繕にかかる金額はいくらくらいですか。
	事務局	現在の額を活かして修繕します。金額は 5 万円くらいはかかるかと思います。
	副市長	（２）「令和 2 年度取得（寄贈）美術品（案）」について事務局から説明をお願いします。
	事務局	今年度は 5 作家 6 作品を寄贈いただきたいです。No. 1 と 2 は駒ヶ

		根市出身の文人画家である冬青小林勇の作品で、当館（梅野記念絵画館）では 2013 年の特別展で展示しました。6 月のコレクション展で冬青小林勇の作品を出した際に、シンプルな画風かつ、多くの油彩画の中でも負けないような大きい作品の寄贈を所有者（冬青小林勇の長女）に打診したところ、寄贈の申出をしていただきました。 No. 3～6 は前館長・副館長である佐藤雅子・修夫妻から既に寄託されていた作品です。退任の際に、寄託作品のうち、既に絵画館の顔として認知されている作品の寄贈を依頼し、今年度は 4 点の寄贈を申し出ていただきました。また、既に収蔵されているので、新たに収蔵庫を圧迫するものではありません。 No. 3 は飯田市出身の横井弘三の「故郷のスターマイン」で、現在開催中の「倉沢コレクション展」にて展示中の作品です。信州近代美術史の体系化に尽力した美術研究家・小崎軍治も横井弘三について評伝を書いていて、信州を代表する作家の一人です。当館では 2014 年に企画展を開催し、本作は横井弘三の最高傑作とも言われるもので、初代館長・梅野隆が最後に手にした作品でもあります。 No. 4 の「哲学の橋（ハイデルベルク）」は梅野隆が最も力を入れた菅野圭介の作品です。全国巡回の際にメインビジュアルとして採用されていて、当館のホームページでも使用しており、当館の顔と言える作品です。 No. 5 は来年度の当館企画展で扱う河野扶の「赤い屋根（シャルトル水辺）」で、梅野隆も研究をしていました。河野扶の作品は抽象画が多い中、本作は初期の滞欧作で、パリ南西の風景を描いたものです。 No. 6 の本荘赳の「葡萄」は 20 年前の当館目録に掲載されていて、ザ・梅野コレクションと言える作品です。当館と言えば青木繁ですが、本荘赳は青木繁の盟友であり、梅野隆の父・梅野満が支援した坂本繁二郎の孫弟子である作家です。当館所蔵の坂本半次郎の作品の系譜を辿ることができる貴重な作品です。また、モチーフが葡萄ですので、当市の名産と絡めての企画も考えられると思います。
	副市長	ただいまの件について、質問・意見等ございますか。 （質問・意見なし） その他、審議したい事項等はございますか。 （その他の審議なし）

4 閉会	事務局	これで審議を終了します。 慎重な審議、ありがとうございました。ただいまの審議の内容を具申書にまとめたものを配布します。 (具申書(案)配布) 以上を持ちまして、東御市美術品取得審査委員会を閉会いたします。ありがとうございました。
-------------	------------	--